

令和 7 年度 第 2 回学校運営協議会の記録

令和 7 年 11 月 28 日 (金)

参加者：学校運営協議会委員 2 名 (欠席 5 名)

校長 教頭 教務主任

場所：音楽室

1 開会 (午後 1 時 35 分～)

2 会長あいさつ

- ・出席が少なく残念。
- ・せっかくの機会なので、授業参観や発表を通して、学校の実情を学ばせていただきたい。

3 授業参観 (各教室 午後 1 時 40 分～午後 2 時 25 分)

- ・3年生から順に参観。授業のねらいや内容は別紙参照。
- ・「どの学級も、児童が楽しそうに学習に取り組んでいた。」との感想をいただいた。
- ・本校の教職員の配置状況 (市教諭の加配) について、校長から説明。

4 協議 (午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分)

(1) 「めざす児童像」の進捗状況について (学校長より)

説明

- ・配付資料、スライドを用いて説明。
- ・教職員の時間外勤務時間について補足説明。平均は 35 時間程度。

質疑応答

- ・共同訪問でいただいた高評価は、本日の授業参観から見て納得した。時間外勤務は、どのように生じるのか。
 - 事務処理にかかる時間が多いが、校長裁量で配付文書等は精選している。紙面ではなく、デジタル化で時間を軽減している。
- ・児童に関わりたいと考える先生への負担が多くなっているのではないか。
 - 電話対応の時間制限、連絡網の廃止などによって、細かく時間を削っている。働き方改革の肝は、教職員が児童に向き合う時間を確保するためのもの。

(2) 学校評価について (教頭より)

説明

- ・配付資料、スライドを用いて説明。

質疑応答

【評価項目 1～6】

- ・評価が厳しくなっているように感じる。保護者の意見を汲み取って、改善しようとするのはよいこと。読書については、教職員と保護者との乖離が大きい。基準が定まっているとよいのではないか。
 - 校内はもとより、西方ブロックで連携して、読書についての指導もしている。
- ・田口様：児童の個人内での進歩はあるかと思うが、保護者からすると、そこを認めづらい。基準を明確にすると、意識の乖離が減少するのではないか。

- ・個によって興味や関心が異なるので、それぞれが興味のある本を読めば、それでよいと思う。
- ・評価項目１についての保護者の評価がかなり低いのは、期待を込めている表れかもしれない。

【評価項目７～１０】

- ・多くの項目で、成果が上がっている。「感謝の気持ちをもって生活している」について、児童の評価が高いのがよい。
- ・よい評価が得られている。

【評価項目１１～１４】

- ・評価に差はあるが、児童は安全を考えて行動している。「かがや木」で自分のよさを認めてもらっている。校内では児童も先生方も大きな声であいさつしているが、児童の朝のあいさつの声が小さい。
- ・以前は教職員のあいさつの声が小さいという意見が聞かれたが、今はなくなっている。ボランティアの方には、児童が大きな声であいさつができるとよい。
→ 毎日のことに、甘えている部分があるのかもしれない

【評価項目１５・１６】

- ・さくら連絡網が有効に活用されている。ＨＰでの学校行事の紹介やアンケートがとてもよい。
- ・ＨＰの更新がすばらしい。
→ 教職員、児童、保護者の評価の乖離が少し問題に思っている。行事の意図や目的などを示してはいるが、よく伝わっていないので、改善したい。
- ・児童は、家と学校で様子が違うのは当たり前なので、評価がずれるのも仕方がないのでは。
- ・学習ができていなくても、取り組む姿勢が大切と教えている。児童にもゆとりの時間をもたせるとよい。

５ その他（午後３時３０分～午後３時３５分）

- ・教職員の不祥事が多く報道されている。市内はどうか。
→ 毎月の安全点検で、不審物の確認をしている。飲酒運転等の不祥事を起こさないように、指導している。低学年児童の着替えについても配慮している。校内でできることを考えて取り組んでいる。
- ・教員グループの不祥事には驚いた。
- ・学校には、いい迷惑でしょう。

６ 閉 会